

## 文献 1

Li X, Zhou K, Zhang E, Qi Z, Sun W, Xu L, Xu J, Cai Y, Wang R. Therapeutic effect of electroacupuncture, massage, and blocking therapy on external humeral epicondylitis. Journal of traditional Chinese medicine. 2014; 34(3):261-266. MEDLINE ID 24992751

### 1. 目的

上腕骨外側上顆炎(テニス肘)に対する鍼通電+マッサージ+ブロック注射の効果を明らかにする。

### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

### 3. セッティング

Beijing Sports University

### 4. 参加者

大学のテニス部に所属する男女 86 名

### 5. 介入

鍼通電+マッサージ+ブロック注射群。鍼通電には 0.35 mm×75 mmの鍼を使用し、Ashi(圧痛点)と LI11(曲池)、LI12(肘髎)と LI10(手三里)、SJ5(外関)と LI4(腕骨)を接続し 1 日 1 回 30 分を 10 日間行った。1 週間の期間を空けマッサージを上肢に 1 日 1 回 30 分を 10 日間行った。ブロック注射は最大圧痛部とその周囲に 3 回行った(43 名)。コントロール群はブロック注射のみを行った(43 名)。

### 6. 主なアウトカム評価項目

治療前、治療後 0、6、12、24 ヶ月後に痛み(VAS)、握力指数(GSI)、Mayo elbow performance score(MEPS)を測定。

### 7. 主な結果

VAS は鍼通電+マッサージ+ブロック注射群で治療前と比較して 12 ヶ月後まで有意に低下し、コントロール群では 6 ヶ月後まで有意に低下した。12 ヶ月後の測定では、コントロール群が有意に高値であった。GSI と MEPS は、鍼通電+マッサージ+ブロック注射群で治療前と比較して 12 ヶ月後まで有意に上昇し、コントロール群では 6 ヶ月後まで有意に上昇した。12 ヶ月後の測定では、GSI、MEPS とのコントロール群が有意に低値を示した。

### 8. 結論

どちらの方法も 6 ヶ月後まで効果が続いた。コントロール群で 12 ヶ月後に治療前に戻ったのに対して、介入群では効果が持続した。しかし 24 ヶ月後には両群とも治療前に戻った。鍼通電とマッサージ、ブロック注射を組み合わせると、治療効果が長く続き再発を遅らせることが示唆された。

### 9. 論文中的安全性評価

記載なし。

### 10. Abstractor のコメント

本研究ではスポーツ障害で頻度の高い上腕骨外側上顆炎に対して、鍼通電、マッサージ、ブロック注射の組み合わせが有効であることが示唆された。スポーツ障害の臨床ではこのような治療の組み合わせが行われることがあるが、3つの介入の単独での効果については検討の余地があると考えられる。さらに、長期的効果については今後の研究の進展が望まれる。

### 11. Abstractor and date

吉田行宏 2016. 4. 17